

平成30年度 東北地区現場研修会 開催報告

一般社団法人ダム工学会 企画運営委員会

活性化推進小委員会 東北地区幹事

東北ブロックでは、平成30年度東北地区現場見学会を、下記のとおり10月2日に築川ダム（岩手県）工事現場にて開催し、無事終了しましたので報告致します。

集合は仙台駅東口として、一路東北自動車道をバスで2時間半北上し、岩手県盛岡市内築川ダム建設JV事務所に向かいました。車内では築川ダムパンフレットに基づく事業概要につき説明を受けるとともに、東北管内直轄ダムの施工ビデオを鑑賞し、これから向かう築川ダム建設現場に思いを巡らせました。

現場JV事務所で昼食・休憩をとった後、岩手県築川ダム後藤次長・渡辺主査より岩手県補助ダムで最大の貯水容量となるダム規模であり、現在73%の打設進捗状況につき説明して頂きました。また、ダム建設JV勝間田副所長よりダム施工現場の概要と現在の状況について説明を受けた後、現場に移動し現場見学を行いました。

ダムサイトではまず始めに、ダム左岸天端付近に設けられた骨材ストック設備、普段は見られないバッチャープラント内部を視察しました。その後、左岸天端より仮設階段により左岸アバット部に降り、基礎岩盤の性状について確認しました。さらに実際の打設面に立ち、様々な打設機械の稼働状況や養生中のコンクリート打設面、型枠設置状況等につき確認することができました。

現場見学を終え、仙台に向かう帰りのバス車中において、参加者より見学会の感想を発表していただいたところ、普段あまり見ることのないダム施工現場の状況につき興味深い感想を頂きました。本報文の後ろに、本見学会に出席した学生2名、一般1名からの感想文を掲載します。

今回の現場見学会は総勢28名となり、多くの方々にご参加いただきました。

特に岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所、及び清水建設・鴻池組・平野組特定共同企業体の皆様には、ご多忙の中、ダム概要・状況説明、現地案内をはじめ多大なご協力とご配慮を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

<平成30年度 東北地区現場見学会 概要>

1. 開催期日:平成30年10月2日(火) 日帰り

2. 見学場所: 岩手県築川ダム









3. 参加人数: 28名

機関	国交省	県	大学 関係	建設 会社	コンサル タクト	個人	合計
人数	5	0	10	8	2	3	28

4. 見学会行程

項目	時刻	内容	備考
集合 J R仙台駅東口	9:00 集合 9:15 発	仙台駅東口を出て1F 仙台 駅東口バスプール	
バス移動	9:15~11:45	概略説明、ダムビデオ	築川ダム関連資料配布
昼食・休憩	11:45-13:00	お弁当、お茶	築川ダム建設 JV 事務所 内
現地状況説明	13:00~13:30	現地状況説明、質疑応答	築川ダム建設 JV 事務所 内
築川ダム見学	13:45-15:45 約2.0時間	現地状況説明、質疑応答	・ヘルメット、長靴借用 ・岩手県、工事 JV
バス移動	15:50~18:20	見学会の感想他	
J R仙台駅	18:20	解散	

5. 現地写真

	
<p>JV 事務所で状況説明を受ける（その1）</p>	<p>JV 事務所で状況説明を受ける（その2）</p>
	
<p>骨材ビン、骨材投入口と仮設構台</p>	<p>バッチャープラント内部の視察</p>
	
<p>左岸ダム天端より打設面（右写真）を眺望</p>	<p>打設面での作業状況</p>
	
<p>左岸アバット岩盤と造成アバ（BL1）</p>	<p>打設面と右岸側掘削のり面</p>

6. 参加者からの感想文

(1) その1

東北大学工学部 4年 山本颯人

今回はダム工学会の現場研修会に参加させていただき、普段見ることのないダムの建設現場を見学させていただきました。大学入学後、授業の一環として土木構造物の現場見学させていただくことは何度かありましたが、ダムの現場見学をすることは初めての機会であり大変貴重な経験でした。実際に建設中の築川ダムを堤体の上から見学し、現在の打設状況や岩盤の様子を観察することができました。今回は建設途中のダム見学であったので、築川ダムの建設が終わり供用開始後にダムの様子を見学したくなりました。

現在、大学4年で土木工学を学んでいて、勉強していることがスケールの大きい構造物を作り上げることの基礎になっていることを再認識することができ、これからの勉強のモチベーションになりました。また、これから大学院進学後に就職についても考えていく時期にある中で、今回のダム見学は大きなものになりました。

最後に今回の現場研修会に参加させていただき、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

(2) その2

東北大学環境水理学研究室 4年 務台雄斗

今回建設中のダムの見学ということで普段見ることのできない現場を見ることが出来ました。非常に貴重な経験ができたと思っています。今回最も印象に残っていることは、やはり工事のスケールです。今回見学した築川ダムはコンパクトなダムとのことでしたが、自分にとっては規模も費用もかなりのスケールでした。

実際に現場に立ってみると、その大きさもさることながら、完成後のダムの存在意義やかかっている費用、従業員の数などをみていかに責任のある仕事をしているのか感じる事が出来ました。

またその具体的な内容の一つに岩盤とダムの接続という一つのテーマがありました。

柔らかい地盤にダムを接続してしまうとそのままダムが崩れてしまう。そんなことはあってはなりません。柔らかい地盤をはぎ取り固い地盤に接続する、ダム作りもまずは基本の土台が大切なのだと知りました。

今回建設途中のダムを見学しましたが、今後どのように変化をして完成していくのか非常に気になります。完成まであと約2年ですが、完成前にもう一回、完成後に一回見に行きたいと興味をひかれています。

今回はこのような見学会を開催していただきありがとうございました。

(3) その3

佐藤工業株式会社 松井年雅

毎週のように台風が日本直撃が繰り返され、研修会は延期されるのではないかと心配していましたが、天候は台風一過の晴天に恵まれ、現場は何事もなかったかのように通常の状態を保っており、当日もコンクリート打設が予定されているとのことでした。

バスでの移動中には、建設省時代のダム建設の映像を拝見し、人里離れた山奥で大自然を相手に、困難を克服しながら長い時間をかけてダム建設を進めていくといった、当時の関係者のご苦勞を理解することができました。

それに対するように、今回の築川ダムは、盛岡市の市街地からあまり離れていない区域に位置し、UAVによる航空測量やその他多くの i-construction も取り入れ、仮設ヤードもすっきりとコンパクトに配置されており、スマートで近代的な建設現場となっています。

建設業の魅力溢れる現場ですので、いろいろな方面にアピールしていただければ、建設業離れを減少させることもできるのではないかと思います。

このたびは、ご多忙の中、研修会を開催いただき、ありがとうございました。